

業 種	鉄道・軌道
取組分野	安全方針の周知徹底、見直し等
テ ー マ	社員の「意識」や「行動」の拠り所としてのアクションプラン策定
取組の狙い	<p>(1) 「安全行動規範アクションプラン（以下、アクションプラン）」を策定することで、平常時はもちろん異常時対応などでの社員の「意識」や「行動」の拠り所とする。</p> <p>(2) 現業機関の中堅社員が主体となって策定することで、関係した社員の安全意識の高まりを期待する。</p> <p>(3) アクションプランをベースとした安全行動の実践が社員に定着する。</p>
具体的内容	<p>【取組の背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 平成24年9月、現在の「安全に係る社員の行動規範（以下、安全行動規範）」を策定し、安全意識向上を図ってきた。 ✓ 近年、自然災害の激甚化、業務におけるDX活用機会の拡大のほか、車内傷害事件発生（令和3年10月）など、鉄道事業を取り巻く環境が大きく変化してきた。 ✓ 変化する外部環境に対応すべく、平常時はもちろん異常時対応などにおいても、社員の「意識」や「行動」の拠り所となるものを策定することを考えた。 <div style="text-align: right;">  <p>【策定したアクションプラン】</p> </div> <p>【策定のプロセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 約1年間にわたる議論を経て、令和6年3月にアクションプランを策定した。 ✓ 策定にあたり、鉄道事業を支える現業機関の中堅社員延べ200名が16回にわたり議論に参加した。 ✓ 既に社員に浸透している「安全行動規範（平成24年9月策定）」を具現化する形で策定することとした。 ✓ 鉄道部門の社員が自ら宣言するものとした。 <div style="text-align: right;">  <p>【現業機関で議論している様子】</p> </div> <p>【周知・定着に係る工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 社員一人ひとりに、アクションプランの内容を浸透させるため、「パンフレット」を作成し、配布した。

- ⇒ 策定の経緯・位置づけ、フレーズや行間に込めた思いの解説、策定メンバーのコメントなどを記載
- ⇒ 安全統括管理者（鉄道事業本部長）の「想定外の事象の対応にあたって、皆さんが判断し行動した結果について、私たち経営者が責任をもつ、安心して対応していただきたい」とのコメントを記載し、会社としてのコミットメントを付与
- ✓ パンフレットのほか、「携行カード」配布、「ポスター」掲示により、常時、内容を確認できるようにしている。
- ✓ 安全教育や総合訓練などにおいて再確認し「行動」と「アクションプラン」の紐づきを強化している。

07

私たちは、挨拶やお礼などで
小さな関係を積み重ね、
「素敵な指摘」をしあい、ともに
成長します。



解説

- 同僚はもとより上司や先輩、他職場の仲間に対して気づきを指摘することはためられるものです。しかし、指摘しなければ仲間にミスが発生させてしまうことや悪条件が重なることで事故やトラブルを誘発する場合があります。私たちは、ともするとマイナスイメージのある「指摘」という言葉を「素敵な指摘」と前向きに表現することで、相互に抵抗感なく指摘しあい、組織・個人として、さらに成長します。
- 「指摘」を「素敵な指摘」とするためには、常日頃から、他職場の業務内容を知り、仲間の立場を理解し尊重する姿勢を持つことが必要です。普段から他職場の仲間に対して、挨拶やねぎらい、感謝、称賛などをこまめに伝えることなど、小さな関係（コミュニケーション）を積み重ね、何でも言い合うことができる関係をつくります。

【アクションプランの解説（パンフレットの一部を紹介）】

取組の効果

- (1) 約1年間の検討を経て「安全行動規範アクションプラン」を策定し、令和6年4月より運用を開始した。
- (2) 策定することで得られた効果
 - ⇒ 策定メンバーの一人ひとりが安全について深く考える機会となったことで、各職場で安全の取組を積極的に推進する姿勢を見せている。
 - ⇒ 策定メンバーによる議論を元に、縦断的・横断的なコミュニケーションの活性化に繋がったことで、現在も系統横断的なコミュニケーションが継続している。
- (3) 「安全意識調査」にて理解度・浸透度を確認した（令和6年11月）。
 - ⇒ 「安全に係る社員の行動規範」及びアクションプランの認知度は高く、十分に浸透していた。
 - ⇒ 特に、「職場で、何でも誰とでも話しができる雰囲気がある」「上司に対し、遠慮なく意見が言え、上司も受け止めてくれる」の項目が大きく向上し、「素敵な指摘」ができる職場環境が築かれつつあると解釈している。
 - ⇒ 今後も「安全意識調査」にて浸透度合いを確認していく。

	(4) 総合訓練、安全シンポジウム、安全教育など、安全に関する取組を実行する際、アクションプランを意識させる内容とすることで、行動との結びつきを強化していく。
事業者名	京王電鉄株式会社 安全推進部 安全推進担当 (連絡先：042-337-3285)

安全に係る
社員の行動規範

全てにおいて
お客さまの視点に立ち、
安全確保を第一に
行動する。

社員一人ひとりが
ルールを遵守し、
判断に迷ったときは、
自ら考え、最も安全と
認められる行動を
とる。

情報伝達は
迅速かつ正確に行い、
共有化を図る。

組織・職位を越えた
コミュニケーションを
構築し、
全社員が連携して
問題解決にあたる。

安全行動規範アクションプラン

01 私たちは、安全・安定運行に向け「たゆまぬ努力」をしつつ、違和感を覚えたときは、躊躇せず「止める勇気」を持って行動します。



02 私たちは、自身の身を守りつつ、お客さまの安全を確保し、お客さまの安心に繋がる情報を提供します。



03 私たちは、しくみや構造などの本質を理解するとともに、訓練などで経験の引き出しを増やし対応力を磨きます。



04 私たちは、異常時においては、安全を最優先に自ら考え、状況に応じて最善をつくします。



05 私たちは、安全・安定運行に必要な情報や気づきを仲間に共有し、ミスは直ちに報告します。報告を受けた際はミスを責めずに真因をともに考えます。



06 私たちは、人命救助・被害拡大防止にチームプレイで対応するため、迅速に情報共有します。



07 私たちは、挨拶やお礼などで小さな関係を積み重ね、「素敵な指摘」をしあい、ともに成長します。



08 私たちは、社会や技術の変化を捉え、未来に向けた「KEIOクオリティ(サービス・品質)」の継続的向上にチャレンジします。

